

令和3年



ソフィアだより

キャーロノメダマ
キャーロノメダマにきゅうすえて
それでもとべるかとんでみな
オッペケペツポー ペツポツポ
わらべうたより



例年よりも早い梅雨の始まりに、じめじめとした心地悪い気持ちになることもありますが、子どもと一緒にこの言葉を唱えてみてください。なんだか、楽しい気分になれるかもしれません。「ことば」というものは、その一言で、楽しい気持ちにもなり、どん底の気分になることもありますね。

学力の根底にある力は、「国語力」だとよく言われます。「考える」時、その物事を言葉に置き換えて考えます。算数科目を学ぶ上にも、計算力は必要ですが、算術問題になり『この問題は足し算なのか、引き算なのか、』と理解し解決する力は言葉の力です。言葉の数、言葉を理解する力は、ソフィア時代に十分に育てていきたいものです。本が好きになることがスタートですが、好きな本をみつけて読む。ということと、学力に通ずる「読む力」は異なります。学力に通じる力は熟読です。その文章に集中して読めるという力は、物事に注目する力、がまんする力、あきらめない力、チャレンジする力、など乳幼児期に大きく育つ力が核になります。

3歳児クラスから、石井方式の漢字絵本、(漢字かなまじり絵本)を使用しています。ひらがなだけでなく漢字が入ることにより、文の意味が頭にイメージができます。(「はな」ではなく、「鼻」と漢字で書くと、顔の真ん中にある鼻を思い浮かべられます。)毎月の漢字絵本を読むというカリキュラムをすすめる中で、文章をイメージして読む力、理解する力が育ってきます。

しかし、もちろん、一番の乳幼児期の国語教育は、まわりの大人の正しい、愛ある、豊富な言葉かけであることを忘れてはなりません。



ソフィア東生駒こども園
園長 中畑直実